

次期学習指導要領 1枚まとめ｜小学校

国語 小学校

話す・書く・読むを「話や文章の機能」でつなぐ教科へ

10秒でいうと 話す・聞く、書く、読むを「話や文章の機能」でつなぐ。手書きの書写を引き続き重視

国語は、話す・聞く、書く、読むの学習をつなぐ方向です。カギは「話や文章の機能」（仮称）です。これは、文章が社会で果たす役割のことです。たとえば「考えや主張の理由付けと吟味」があります。言葉の知識は、使いながら深めるものと、教養として深めるものに分けて整理する案です。小学校では、手で書く書写の指導を丁寧に進めるとされています。

1 「話や文章の機能」で3つの領域をつなぐ

今は、話す・聞く、書く、読むの学習が別々に意識されがちです。次期は、文章の役割（機能）ごとに指導事項を整理する方向です。たとえば「論説を読む」「意見文を書く」「提案のスピーチをする」を、同じ機能の学習としてつなげやすくします。 P131 P134 P139

授業では 説明文で学んだ「主張と理由」の形を、次の単元の意見文やスピーチでも使う。そんなつなげ方が考えられます。

2 言葉の知識を2つの面に分ける

知識は「運用しながら深める」面と「教養として深める」面に分ける案です。前者は文章の組み立てなど、使いながら身に付けるものです。後者は言葉のきまり、古典、書写、読書などです。漢字の「読み書き」と「成り立ち」も一つにまとめる例が示されています。 P131 P135 P138

授業では 新出漢字を、部首や成り立ち、意味と結び付けて読み書きする。そうした学び方が、この方向に合う一例として考えられます。

3 手で書く書写を丁寧に

タイピングで文字を入力する機会が増えても、書写は引き続き重視するとされています。とくに小学校では、手書きの書写を丁寧に指導する方向です。書くのが苦手な子には、デジタルの活用や代わりの方法を用意することも明確にするとしています。 P141

授業では 書写では字形や筆順を確かめて整えて書く。日記など表現の手段として書く文字とは、評価を分けて考えるのが一例です。

4 ローマ字は3年の国語、入力は「情報の領域」で

ローマ字の学習は、今どおり小学校3年の国語で行う方向です。ローマ字入力のタイピングは、総合的な学習の時間の「情報の領域」（仮称）が中心に担うとされています。要約など、育てたい力に直結する場面では、生成AIを不用意に使わないよう慎重にとしています。 P140

授業では 要約の単元では、まず自分で要約を書き、生成AIの出力は後で比べて吟味する材料にする。そうした順番が考えられます。

ほかにも変わること（小学校）

- 「話や文章の機能」（仮称）で3つの領域の学習をつなぐ P131 P134 P139
- 「思考力、判断力、表現力等」の示し方を、文章の種類と考える要素の「ひとまとまり」に P134 P138
- 「知識及び技能」を「運用しながら深める」と「教養として深める」の2つに整理 P131 P135 P138
- 評価のやり方の整理（形成的評価を重く、まとめの評価は後で） P129 P142
- 生成AIの使い方とローマ字入力の扱い P129 P140
- 教科書の教材を「基幹教材」と「関連教材」に分ける P139
- 情報の扱い方・語彙・読書・古典の学習をさらに改善 P136
- 書写：手で書く指導を引き続き重視 P141

原田英語.com 次期学習指導要領ナビ｜
https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/
｜2026年11月4日 版

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。出典：審議まとめ（2026年10月5日）。告示前の方向性です。